ぐるっとマップ No.300 鎌倉時代の大北地域 保存版

マップ作成：NPO法人 ぐるったネットワーク大町

2011年5月に連載をスタートしたぐるっとマップも、今回で300号となりました。
2021年は、仁科盛遠が戦い、討ち死にしたという1221年の承久の乱からちょうど800年にあたります。そこで記念すべき今号では、800年前の大北地域に思いを馳せ、平安末期から鎌倉時代につくられた美術品と、鎌倉初期の荘園を紹介します。

荘園とは… 寺社や貴族の私有地です。
平安時代になると信濃の豪族も、朝廷の公的支配から逃れるために自らの支配地を進んで寺社や天皇家に寄進し、領地として確保するようになりました。大北地域を治めていた仁科氏やその一族も同様で、鎌倉時代のはじめ頃、この地域には5つの荘園がありました。

A. 千国庄
六条院領で、於他里と飯守に役所があったとされることから、小谷・白馬の広範囲に広がる荘園だったと考えられます。
年貢は麻布60段でした。（1190年『新見文書』）

B. 仁科庄
古代・中世に大北地域を治めていた豪族仁科氏は、この仁科庄を六条院に寄進して領地とし、経済基盤を築きました。
範囲は社地区北部から旧大町地区、借馬地区辺り、現在の若一王子神社はこの荘園の鎮護の神だったと考えられます。

C. 仁科御厨
伊勢神宮内宮の荘園で、信濃の中でも早期に成立したことがわかっています（1192年『皇太神宮已下古文書』）。
面積は40町とあり、今の宮本・曽根原・閑田から八坂の藤尾に及ぶエリアと推定されます。
仁科神明宮は、この御厨鎮護のために伊勢から勧請された神社です。

D. 大穴庄
安曇野市陸郷と、池田南部の中之郷・鵜山・滝沢を範囲とし、鎌倉時代初期には八条院領でした。
今も残る大穴山泉福寺は、大穴荘の祈願寺だったと伝えられています。

E. 矢原庄・矢原御厨
安曇野市穂高を中心とし、南は豊科・堀金に及ぶ矢原庄。
北安曇では松川村細野、池田町池田・正科が含まれます。
1118年に伊勢神宮外宮に寄進され、矢原御厨となった記録があるものの、公家領（後白河院領の後、蓮華王院領）に属したり伊勢神宮領に戻ったりを繰り返しました。

1. 中谷大宮諏訪神社 古代蘿鍾（鎌倉時代、村文化財）

2. 常法寺
銅造阿弥陀如来及両脇侍立像
（南北朝時代、県宝）

3. 来馬豆平諏訪神社
菊散槍垣双雀鏡（鎌倉時代、村文化財）

4. 三日市場神明社
銅製御正体2面（1286年、県宝）

5. 若一王子神社
銅造十一面観音坐像御正体残闕
（鎌倉中期、県宝）

6. 弾誓寺
木造観音菩薩立像（平安中期、県宝）

7. 大澤寺 木造阿弥陀如来立像
（頭部は平安時代末、市文化財）

8. 木舟集落 鉄鰐口
（1228年、国重要文化財）

9. 木舟薬師堂 木造薬師如来立像
（躯体部は鎌倉時代後期、市文化財）

10. 山寺廃寺跡
山寺廃寺跡出土品（鎌倉時代中期、県宝）

11. 藤尾覚音寺 木造千手観音立像
木造持国天立像・木造多聞天立像
（1179年・1194年・1195年、いずれも国重要文化財）

12. 盛蓮寺 木造如意輪観音坐像・木造不動明王立像
（鎌倉時代後期、市文化財）

13. 仁科神明宮
銅製御正体5面
（鎌倉時代、国重要文化財）

14. 広津栂ノ尾毘沙門天堂
木造毘沙門天立像
（平安時代後期、県宝）

今回のマップは、『北安曇誌 第2巻 原始・古代・中世』を参考に作成しました。

このマップでは、四季折々の地域の魅力を再発見するために、皆様から情報をいただきながら 様々な切り口で紹介してまいります。
ぐるったネットワーク大町事務局：TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557

※このマップは、2021年12月24日付の大糸タイムスに掲載されました。
※情報は掲載当時のものです。ご注意下さい。
※個人で楽しんでいただくためのものです。二次利用をされる場合にはご相談下さい。